

県庁を活用し、最先端の 生活支援ロボット展示を実現

公明党 鈴木ひでし

今から10年前、県議会で初めて「介護ロボット」の導入推進を提言し「バーチャル警備員」でから、「介護ロボットす。周囲をAIで解析す普及推進センター」の設置や全国でも珍しい「さ視線を送りながら声掛けがみロボット産業特区」したり、案内をすることの推進等、県のロボットが出来ます。当日、背の



自分の意思で手を動かせる筋電義手

施策を後押ししてきました。しかし、県民がそのはどこ？」と尋ねると、施策を実感できるような人間と同じように背を屈進展がない現状を鑑み、め、お子さんの顔を見ながら「入口を出て右側で岩知事に「県は数々のロボットや未病を推進してきた。しかし、県庁のどこにもロボットや未病に関する環境は無い。県庁をこのシヨールームとして活用してはどうか！」と提言しました。

などが幼児期から訓練することで、より豊かな生活を送ることが出来ますが、訓練用義手は1台約150万円と高価で成長に併せて作り替えも必要なことから、日本ではあまり普及が進んでいません。そこで公明党県議団として「筋電義手バンク」を提言。現在、寄付金を活用しながら普及促進に取り組んでいます。

これを受け、11月に県庁周辺で開催された「ねりんピックスマイリングフェスタ」にて、県による生活支援ロボット展示が実現しましたので、ご報告いたします。

当日は偶然にも普通の義手を利用している方が来場され「この義手があれば生活の質が向上する。もっと早く知りたかった」とお話しされました。

三日間にわたって開催されたフェスタでは、障害をお持ちの方が社会参加できる「オリヒメ」や癒しのロボット「ラボット」、「マッスルスーツ」など、様々なロボットが展示されていました。その中からいくつかをご紹介します。



AIを搭載したバーチャル警備員



モットーは「まかせて安心！
いのちと生活を守る！鈴木ひでし」。

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、産業労働常任委員会、次世代育成・デジタル戦略推進特別委員会

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>

私は今後、県庁が全国にも珍しいロボットの普及啓発と社会実装を実感できる場とすべく、全力で提言をしてまいります。